

## **5. 関東地区教員研修**

## 問題提起

# 幸せな2歳児時代から 幸せな3歳児時代へと移行する為に 私たちができること

問題提起者▶小川 敬子（川崎ふたば幼稚園 教諭）

## 1. はじめに

本園は川崎市商部の京浜工業地帯のそばに位置している。近年大規模工場が撤退した跡地にマンションが林立しはじめた。このように自然に恵まれない地域なので園内は樹木や花を多く植え、雑草もあえて残すことで、蝶や鳥、虫などが集まるようになり、子どもたちの遊びにも一役買っている。

現在本園には5歳児83名、4歳児90名、3歳児70名、計243名が在籍している。

未就園児親子クラスは平成12年度より実施しているが、13年度に入園して来た子どもたちが、例年より比較的早く安定した園生活を送るようになったことを実感し、未就園児親子クラスの意義を感じた。

希望者はいつでも本教室に参加できるようにしているため、メンバーは固定していないが、活動日、活動内容をあらかじめ伝え、初めての親子でも入りやすい家庭的な雰囲気を感じている。

### ★未就園児親子クラスのあらまし

#### ●参加者

次年度3年保育に該当する幼児、園に在籍していない次年度2年保育の幼児とその保護者（前者がほとんどである）

#### ●日程および1日の流れ（全て親子での活動）

月2回程度（6月～3月）全15回 10:30～11:30

登園→挨拶（歌：あなたのお名前は？）→出席シール貼り→体操→主活動→排泄、手洗い→おやつ→降園

#### ●参加人数（最大78人、最少7人、平均44.9人）

#### ●参加の多寡の理由

例年入園願書提出までは多いのだが、入園が決まると徐々に参加者が減ってくる。

この理由として

- 1 秋から冬に変わる為に幼児なので風邪を引きやすい。
- 2 主活動以外は同じプログラムなので、簡単だと思われる
- 3 入園が決まったので安心してしまい、足を運ばなくなる

以上のようなことが考えられるので、後半も参加したくなるような魅力的なプログラムを用意するようにしている。

## 2. 問題提起の要旨、ねらい

「育児支援」という言葉が、子育て期の保護者だけでなく、ニュースなどで頻繁に聞かれるようになり、社会の認知を得られつつある昨今である。乳児時代の母子が密着、精神的にも一体化した時代を抜けつつあり、その子らしさを見せつつある2歳児時代の育児支援を園としてどのように行っていくべきなのであろうか？

便利なことが当たり前という時代に育った親世代ゆえの子育て中の孤独感、いらいらした感情を、前向きな気持ちで育児は楽しいと思えるような意識を変化させていかれるような2歳児クラスのあり方を考えたい。

当園では上記のように平成12年度より未就園児クラスを行っており今年で10年目を迎えるが、

この間以下の点を配慮しながら行って来た。

#### 【子どもに対する配慮】

- ・幼稚園の場で歌、体操、出席シール、主活動等を行うことで幼稚園に入ってから生活リズムをつけやすくする。
- ・「あなたのお名前は？」という歌を毎回必ず歌い、自分の名前を言う活動を取り入れる。  
人数が多い時も必ず1度は関わることができ、子どもも毎回行うことでこの時間をとても楽しみにするようになり、保護者も我が子が自分の名前が言えるということが、大きな喜びになる。

#### 【保護者に対する配慮】

- ・子どもとの関わりが淡白であると思われる母親でもスキンシップが多く持てるような活動をすることで、我が子への可愛さを再確認できるようにする。
- ・市販のおもちゃがあふれているので、手作り教材をたくさん用意したり身近な物を使う工夫を示すことで、家庭での遊びのヒントを提示する
- ・親同士が交流をもてるような時間を作る
- ・育児支援を念頭におき、専業主婦の育児は密室、孤独、密着になりやすく子どもと過ごす時間が多いからこそその悩みもあるので、育児経験のある保育者が、家庭的な雰囲気の中で母の思いに共感しながら保育にあたる
- ・幼稚園の雰囲気に親しみをもてるようにする。
- ・全希望者が未就園児クラスを経験できるよう、参加メンバーを固定せず、参加したい時に参加できるようにする。
- ・多動など療育との連携が必要だと思われる子どもや保護者と入園前に接することで、入園後の生活の対応を考えることができる。またそのような子どもの保護者とのコミュニケーションを図り、保護者の困難を受けとめ共有することで精神的な負担を少しでも軽減したいと考えている。

### 3. 内容

#### 【保護者アンケート】

ねらいに挙げた幼稚園の思いと、保護者の思いにずれが生じていないか、アンケートを実施した。

- ・育児をしていて楽しい面はどんなことか
  - ・育児の辛い面はどんなことか
  - ・未就園児クラスに入ろうと思ったきっかけ
  - ・未就園児クラスに入った感想
  - ・幼稚園生活で我が子にどんな経験を望むか
- という項目について選択式で答えてもらった。

#### 【担任インタビュー】

未就園児クラス参加の経験が、子どもおよびその保護者にどのような効果があったのかを検討するため、昨年度と今年度の3歳児クラスの担任に、未就園児クラス出身で出席率の高かった子ども10名程度について、入園当初のようすをインタビューした。

インタビュー対象は、各年度の3歳児主任2名ずつ、計4名である。

#### 4. 結果の考察とまとめ

##### ★アンケート結果（単純集計）

	保護者の年齢	育児していて楽しい面	育児していて辛い面	クラスに入ったきっかけ	クラスに入っの感想	幼稚園でどんな経験をさせたいか
a	20～24	子どもがかわいい 12	相談相手がない 0	親子で何かしたかった 1	ぶちの遊びで家でもふれあい増えた 10	友だちをたくさん作ってほしい 11
b	25～29	子どもと遊ぶのが好き 2	子どもにいらいらする 9	幼稚園の雰囲気を知りたかった 9	親子が仲よくなった 1	のびのび遊んでほしい 4
c	30～34	成長を実感 11	孤独を感じる 1	入園前に慣れさせたかった 14	親子共々友だちができた 3	集団生活を体験させた 6
d	35～39	いろいろな人と知り合える 1	同じことの繰り返し 3	子どもとの関わり方を 知りた 0	子どもを理解できた 1	精神的に強くなってほ しい 9
e	40～	自分も成長できる 4	自分の時間がない 14	特になし 1	子どもが成長した 14	特になし
f		特になし 0	特になし 3	その他 5	特になし 0	その他
g					その他 1	

##### 【単純集計の結果より】

「育児の楽しい面」では、「子どもと遊ぶのが好き」が少なく、子どもは好きではあるが遊び方（関わり方）について不得手な姿が窺える。「またいろいろな人と知り合える」も少ないが、子育て学級などで知り合いを得ているようすがあり、それほど問題にしなくてもよいのかも知れない。ただ、少数ではあるが人間関係をうまく結べない母親も存在するので、そのような方には配慮する必要があると感じている。

「育児の辛い面」では「子どもにいらいらする」「自分の時間がない」が圧倒的多数を占め、社会とのつながりのなさに対する不安は感じられない。これは、社会的行動をするエネルギーのある保護者が本教室に参加していて、そのエネルギーの少ない母親は参加するという行動すら取りにくいという可能性も考えられる。

##### 【クロス集計の結果より】

各項目間のクロス集計を試みた結果、以下のような傾向が読み取れた。

育児の辛い面で「子どもにいらいらする」を挙げた保護者は未就園児クラスに通ったことで「子どもが成長した」の結果が突出していたことが注目される点である。

同じく辛い面で「自分の時間がない」をあげた保護者は、未就園児クラスに通ったことで「未就園児クラスの遊びを家でも行い、触れ合いが増えた」とする人が多かった。自分の時間がない中でも子どもと遊ぶことは楽しいという思いがあるようである。

なおクロス集計表については、紙面の都合上当日資料でお見せする予定である。

アンケート結果から感じたことは、保護者たちは子どもの「成長」を願っているということだった。

親が子どもの成長を望むのはごく自然な姿ではあるが、自分の時間がないから早く大きくなってほしい。いらいらするから早く自分でできるようになってほしい、という子どもの人間的な成長よりも促成栽培的な成長を望んでいるような姿も浮き彫りになった。

一方未就園児クラスに通う母親は我が子を自分の手で育てたい、成長の瞬間を自分の目で見たいという思いも強く持っている。2歳という発達を知り、あと数年は母親の負担は大きいものの、一人の人間を育てていくという意義を感じて愛情を注ぐことで、いずれ成長した時に安心して見守ることができるようになるということを知ってほしい。

また「子どもにどんな経験をさせたいか」の項目で「友だちをたくさん作ってほしい」という人

が多かった、これもごく当たり前の答えではあるが、保護者と話していると、3歳児の4～5月に「うちの子 友だちいますか？」ということをよく聞かれる。母親が思い浮かべるような友だち関係というのは、これから長い時間をかけて育てていくものだということを折に触れて伝える機会を作り、焦らずに子育てをしてもらえるよう工夫していきたい。

#### 【保育者インタビューの結果より】

今年度および昨年度の3歳児担任へのインタビューの結果、未就園児クラス参加幼児の入園当初の姿について、以下のような傾向が報告された。

- ・遊びや活動への興味がある
- ・遊びや活動への意欲があり、作った物を大事に持って帰る。
- ・保護者との関係が密着であるからこそ、入園当初は離れるのが寂しそうな姿が見られた。
- ・泣きながらもいやがる訳ではなく、着替えたりしている。
- ・知っている曲がかかると踊りだす。
- ・担任に素直に甘えられる。
- ・友だちに話しかける場面が多く見られる。
- ・困ったことがあると、保育者に話せる。

未就園児クラスで母親と一緒に歌を歌ったり製作などの活動を繰り返し楽しんで来たことで、幼稚園という環境が、安心して自分を表現・表出できる場所になっているように思われる。また母親も、子どもが少々泣いたりしていても、幼稚園に託すことに安心感があるように思われた。この母親の安心感が、さらに子どもによい影響を与えているのではないだろうか。

## 5. おわりに

今回のアンケートや保育者インタビューを通して、幼稚園が行う育児支援は母親の負担を肩代わりして取り除くというのではなく、親子が共に心穏やかに、笑みをかわせるようなものになるような援助をすることだということを再確認した。より豊かな援助のために、家庭での遊びのヒントになるような活動内容、スキンシップの方法をたくさん取り入れるなどさらに工夫していきたい。

さらに、当園では親が子どもの欲求を叶えてあげることとわがままを通してしまうことを混同していることが多いと思われるので規範意識の芽生え等についても折にふれて伝えていく必要があると考えている。